

アフターコロナ見据え ドライバーの健康管理

OCHIS 11月にセミナー開催

ヘルスケアネットワーク(OCCHI S)は、11月16日に第15回OCHISセミナーを開催する。テーマは「アフター

コロナを見据えたドライバーの健康管理」で、今回初めてZoomによるウェビナーでの開催となる。

2021年の今、アフターコロナに差し掛かろうとしているが、エッセンシャルワーカーとして人々の暮らしや生活を支え続けているドライバーの健康は、安全・安心な社会基盤を支えるためにも不可欠なものだ。そして、健康管理の必要性は昨今急速に高まりつつある。

今回のセミナーで

は健康起因事故対策や事業者における定期健康診断フォロアップの手法について講演が行われる。また全ト協の健康支援の実績や効果についても、事業者のインタビューなどを交えながら紹介される。

基調講演は国交省自動車局安全政策課長の谷合隆氏のほか、大原記念労働科学研究所の酒井一博氏、全ト協交通・環境部長の大西政弘氏が行う。OCHISからは黒田悦子保健師が「トラックドラ

イバーの生活習慣の現状と変化」運輸ヘルスケアナビシステム利用者アンケート「より」をテーマに、作本貞子副理事長が「情報の一元化で事故予兆に挑戦!」をテーマにそれぞれ講演する。コロナ禍における事業者の取り組み紹介報告も必聴だ。

定員は300人で参加費は無料。申し込み締め切りは11月11日まで。申し込み後、受付完了のお知らせとセミナー招待URLが送られる。(木村麻理奈)